

11月10日(水)
～15日(月)
午前10時～午後8時
※10日は正午

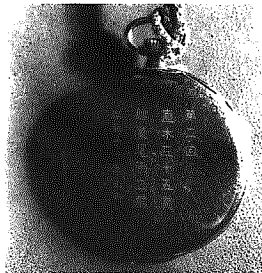


直木賞受賞・吉野朝太平記

黒埼町公民館
(役場2階講堂)
入場無料

鷺尾雨工展

◎町制施行20周年記念事業◎



直木賞正賞の時計(ウラ)

展覧会とシンポジウムの来場者には図録「雨工春秋」を差し上げます。

シンポジウム
(記念講演)
11月14日(日)
午後1時30分～4時
改善センター
入場無料

尾崎秀樹氏

文芸評論家 (3時～4時)

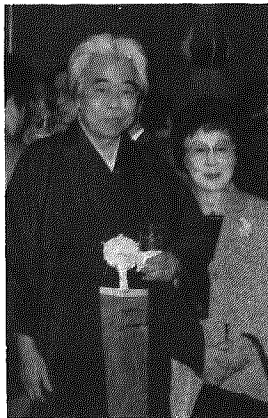
おざきほつき 日本の文芸評論の第一人者。「生きているユダ」「近代文学の傷痕」など著書多数。テレビや講演で活躍中。鷺尾雨工を「もう少し生きることができれば、彼の雄大な構想をもつ歴史大作がまだまだ書き残され、もうひとまわり大きく読者にその存在が印象づけられたかもしれない。そのことを思うと惜しまれてならないのだ」と高く評価している。

鷺尾サダ氏 (2時30分～3時)

わしおさだ 看護婦として昭和17年から雨工の次男任輔に付き添う。20年、雨工の養子となり、鷺尾家を物心ともに支え続ける。雨工の人柄を最もよく知っている。大正12年生まれ、東京在住。

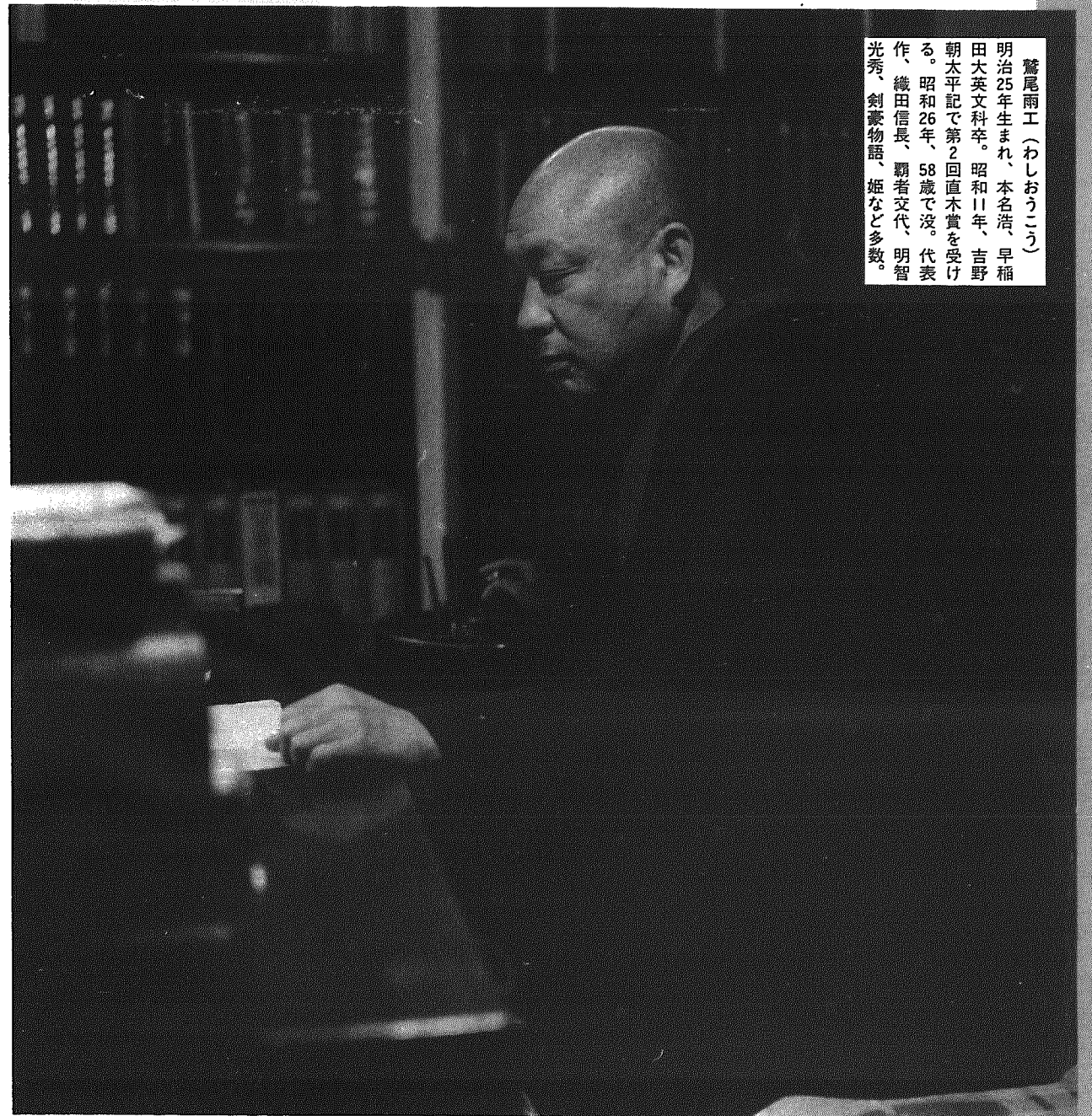
塩浦林也氏 (1時45分～2時30分)

しおうらりんや 三条東高校教諭。昨年、15年に及ぶ研究をまとめた「鷺尾雨工の生涯」を恒文社から発刊。同書で大衆文学研究賞を受ける。日本近代文学会会員。昭和16年生まれ、亀田町在住。



尾崎氏と鷺尾さん

鷺尾雨工(わしおうこう)
明治25年生まれ、本名浩、早稲田大英文科卒。昭和11年、吉野朝太平記で第2回直木賞を受ける。昭和26年、58歳で没。代表作、織田信長、覇者交代、明智光秀、剣豪物語、姫など多数。



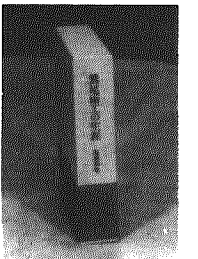
鷺尾雨工展開催にあたり

明治二十五年、黒埼町に生まれ、苦勞の末昭和十一年に第2回の直木賞を受賞した鷺尾雨工(わしおうこう)は、ほとんど知られないまま、没後四十数年が過ぎ去ろうとしています。しかし、近年「吉野朝太平記」、「織田信長」などが復刊され、生誕百年を記念して昨年「鷺尾雨工の生涯」が発刊されるなど、再評価されつつあります。

雨工が「第一の故郷は黒埼」と語っていた当町では、生前も死後も恵まれなかった雨工の復活を願って、初の回顧展とシンポジウムを、町制施行20周年記念事業として開催することにしました。また、文芸評論の第一人者、尾崎秀樹氏を招き講演会も開催します。

今回の展覧会では、雨工の生まれた黒鳥から始まり、幼少、青春期を過ごした小千谷時代、文学を志し直木三十五らと出会った早稲田大学時代、借財を背負い生活苦と闘いながら創作を続けた苦闘の時代、吉野朝太平記で直木賞を受賞し時代小説で一家を成した作家の時代、愛息を失い、自身も体調を崩した晩年、そして雨工をめぐる人々との交流にスポットを当てて、雨工の足跡を肉筆の原稿、初版本、書簡、初出雑誌、遺品、写真など多様な資料をもとに体系的に展覧できるように構成しました。本展を通じて、雨工の文学と人生を多くの方に鑑賞していただければ幸いに思います。

なお、本展の開催にあたり、鷺尾サダ氏をはじめ、塩浦林也氏、恒文社など多くの方々から御協力を得ました。厚く御礼申し上げます。



昨年、生誕百年を記念して発刊された「鷺尾雨工の生涯」